

第 1 回
石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会

会 議 資 料

令和7年7月10日
自然環境課

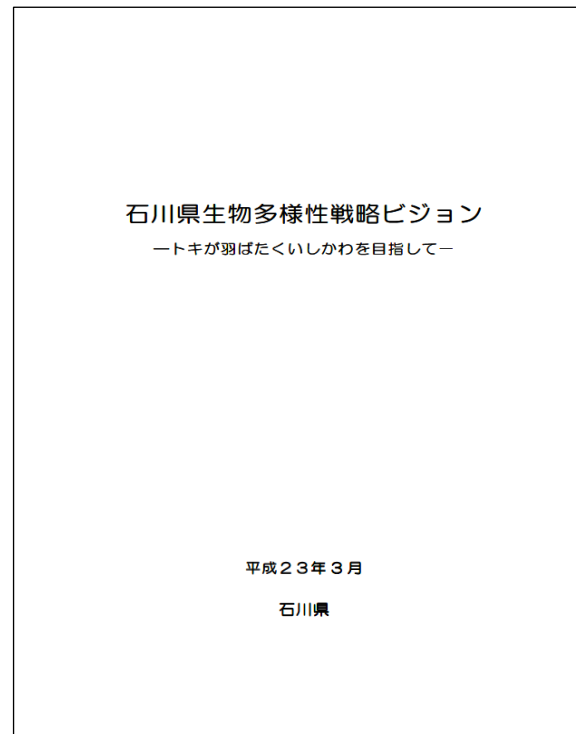
現行ビジョンの概要

1. 策定の経緯

○H20のCOP9で、本県として里山里海の保全の取組を世界に発信し、生物多様性戦略ビジョン策定に着手する旨表明

○H22.3に生物多様性国家戦略が策定される

→H23.3トキをシンボルとし、**里山里海の利用保全**を中心に据えた「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定



石川県生物多様性戦略ビジョン	
目次	
はじめに	2
第1章 戦略ビジョン策定の背景	3
1. 生物多様性とは何か	
2. 生態系サービスと生物多様性の重要性	
3. 生物多様性の危機	
4. 国内外の動き	
第2章 石川県における生物多様性の現状と課題	16
1. 自然環境の概要	
2. 社会経済環境の概要	
3. 生物多様性の現状	
4. 生物多様性に関わるその他の現状	
5. 課題	
第3章 目標	43
1. 中長期目標（2050年目標）	
2. 短期目標（2020年目標）	
第4章 行動計画	52
1. 里山里海における新たな価値の創造	
2. 多様な主体の参画による新しい里山里海づくり	
3. 森・里・川・海の連携に配慮した生態系の保全	
4. 多様な人材の育成・ネットワークの推進	
5. 積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理	
6. 生物多様性の涵養に対する理解の浸透	
7. 国際的な情報の共有と発信	
用語解説	91

現行ビジョンの概要

2. 現行ビジョンの方針等

- ・基本方針：県土の6割を占める里山の利用保全を中心に生物多様性の保全に取り組む
- ・目 標：【中長期目標（2050年）】いのちあふれ トキが舞う 里山里海を未来の世代へ
【短期目標（2020年）】 トキが羽ばたくいしかわの実現
- ・重点戦略：
 - ①里山里海における新たな価値の創造
 - ②多様な主体の参画による新しい里山里海づくり
 - ③森・里・川・海の連環に配慮した生態系の保全
 - ④多様な人材の育成・ネットワークの推進
 - ⑤積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理
 - ⑥生物多様性の恵みに関する理解の浸透
 - ⑦国際的な情報の共有と発信



トキ



里山



現行ビジョンの成果

重点戦略 1 里山里海における新たな価値の創造

世界農業遺産認定（H23）を契機とした「能登の里山里海」の魅力発信や、いしかわ里山振興ファンドを活用した支援の実施、里山里海の優れた景観を保全・再生する取組等により、農林水産業にとどまらない里山里海の新たな価値創造の取組が進められており、里山の利用保全が進められている。

○世界農業遺産活用推進・魅力発信事業

アサヒビールと連携したスタディツアーの実施や、国内認定地域との連携による首都圏等での農林水産物の共同販売等を行い、積極的な情報発信による地域の活性化を推進している。

○いしかわ里山振興ファンド

里山里海の資源を活用した生業の創出やチャレンジ精神旺盛な「生業の担い手」の参入支援、スローツーリズムや多様な主体の参画による里山保全活動の推進、里山里海の恵みの大切さを伝える普及啓発等により元気な里山里海地域の振興を図っている。

スローツーリズム（農家民宿・レストラン）の年間利用者数：31,381人（R6）
※環境総合計画目標値：20,000人（R7）

世界農業遺産活用実行委員会 アサヒビール株式会社

世界農業遺産スタディバスツアー 参加者募集

～学んで応援、能登の里山里海！～

2011年6月にFAO（国連食糧農業機関）により、日本で初めて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」。

地震では大きな被害を受けましたが、様々な方の支援を受け、復興に向けて歩んでいます。今回のツアーでは、「いまの能登」に足を運び、地震や名の後の復興について学びます。能登に心を寄せている方、支援したい方が能登への訪問をためらわれている方、能登に寄り添い、復興の歩みを考えてみませんか。

参加者募集

出発日【日曜日】
2024年 **9月28日** 土

限定 **15名** 30名乗
※お1人様での参加をご希望の場合は応募数減

旅行代金 1名様 4,000円

3つのお宝が一緒に並んだ寺町配景が見られるのは、全国でも妙成寺だけ。現存する数々の建造物の中でも、曹洞宗と臨済宗の奥には足元がすり抜け、海風にさらされる頑丈なつくり。震災を乗り越えて国宝を目指す、1階唯一の感存を誇る重要文化財を行く旅です。

1 妙成寺 ～行って応援～

能登の豊かな自然と歴史、文化を学ぶとともに、地震をきっかけに見えられた歴史資料や茶道具の企画展から文化財保全の取組を「学んで応援」します。

2 のと里山里海ミュージアム ～学んで応援～

能登の豊かな自然と歴史、文化を学ぶとともに、地震をきっかけに見えられた歴史資料や茶道具の企画展から文化財保全の取組を「学んで応援」します。

3 のと里山里海ミュージアム

能登の豊かな自然と歴史、文化を学ぶとともに、地震をきっかけに見えられた歴史資料や茶道具の企画展から文化財保全の取組を「学んで応援」します。

4 一本杉通り 商店街 ～行って応援～

かつて北前船の寄港地として栄え、600年もの歴史がある「一本杉通り」。震災では大きな被害を受けましたが、復興に向けて様々な取組がされています。歴史をなごみながら、特色あるお店を巡り「買って応援」します。

5 のと鉄道

能登半島・七尾湾側の海沿いを走るローカル線「のと鉄道」。沿線の豊かな自然とともに「復興」に向けた「いま」をガイドしながら学びます。豊饒な里山里海の風景に心を癒す「乗って応援」します。

2 能登風土/能登千里浜レストハウス

～行って応援～

地震で大きな打撃を受けた水産業。復興に向けた取組と自然豊かな能登の里海を学ぶとともに、「食べて応援」します。

名産物「しほ餅」や「エビト」や「サザン」や「マワラ」の「一歩千里」・季節の「小鉢」・「吸い物」等の物。

※ご入場料よりお食事代も含まれています。

ツアースケジュール

8:00 出発 JR金沢駅 金沢港口(西口)

9:10 妙成寺

10:40 能登風土/能登千里浜レストハウス(運動)

12:40 のと里山里海ミュージアム

13:50 一本杉通り商店街

15:30 のと鉄道 七尾駅～穴水駅

19:10 解散 JR金沢駅 金沢港口(西口)

※足元の悪い道路や段差・階段がございます。歩くことに不安のある方はご連絡ください。

※入場料は別途。※2階に分けツアーを行う場合がございます。※のと鉄道利用・徒歩移動時の利用は無料(バス利用)。

▲「スタディツアー」チラシ

重点戦略 1 里山里海における新たな価値の創造

○里山景観保全再生プランの策定と景観形成重点地区等の指定

里山里海景観の保全・再生の方針を示す「里山景観保全再生プラン」をH21年度に策定し、地区別の取組手法や景観形成のための基準を整理した。

また、特に優れた里山里海景観を有する地域を、いしかわ景観総合条例に基づく景観形成重点地区等に指定し、建築物や工作物のきめ細やかな規制・誘導を図っている。

景観形成重点地区等の指定

- ・「春蘭の里」（H24.3に景観形成重点地区に指定）
- ・「奥のと里海 日置」（H26.3に景観形成重点地区に指定）
- ・「のと里海地域」（H27.3に特別地域に指定）
- ・「神子原」（H29.5に景観形成重点地区に指定）



▲春蘭の里

現行ビジョンの成果

重点戦略 2 多様な主体の参画による新しい里山里海づくり

いしかわ版里山づくりISO制度や里山ポイント制度の創設・実施、企業の森づくり推進事業での支援等により個人、法人、団体など多様な主体による里山づくりが進められている。

○いしかわ版里山づくりISO制度

企業、団体等の組織が実施する里山里海の利用保全に係る取組を県が認証することで、多様な主体の活動への参加を促す。

また、県や各団体からのお知らせをメールやSNS、郵送で相互に共有することで、その取組やネットワークづくりを支援している。

いしかわ版里山づくりISO認証団体数（累計）：347団体（R6）
※環境総合計画目標値：400団体（R7）



▲いしかわ版里山づくりISO認証書交付式

現行ビジョンの成果

重点戦略 2 多様な主体の参画による新しい里山里海づくり

○いしかわ里山ポイント制度

いしかわ版里山づくり I S O 認証団体や県、市町等が主催する「草刈り」「植樹」などの里山保全活動について、ボランティアに里山ポイントを付与し、そのポイントに応じた里山チケットを交付することで、多くの県民に、里山里海保全活動への参加を促している。

主催者数：321団体	チケット交換人数：6,542人
活動回数：2,779回	チケット交換金額：11,554千円
交付ポイント数：89,130ポイント	
※H24からの累計	

○企業の森づくり推進事業

企業による森林整備を推進するため、企業向けに県の制度や他企業の事例に関する説明会の開催、個別相談や技術指導等の支援を行っている。

協定締結数（累計）：70協定（R6）



▲「いしかわ里山ポイント制度」チラシ

重点戦略 3 森・里・川・海の連環に配慮した生態系の保全

環境に配慮した農業生産を行う**環境保全型農業の推進・普及啓発**や**公共工事で生物多様性に配慮した取組の実施**、**海岸清掃の継続**等、森、里、川、海の連環に配慮した取組が進められているほか、大学や研究機関などが連携した、里山里海における調査研究が実施されている。

○環境保全型農業の推進

化学肥料・農薬の使用を慣行の3割以上低減して生産する農業者を「エコ農業者」と認定する「エコ農業者認定制度」（R5年度からみどり認定制度に移行）や、化学肥料・農薬の使用を慣行の5割以上低減する取組を行う農産物を認定する「特別栽培農産物認証制度」等を実施し、農業者の支援に取り組んでいる。

○環境保全型農業の普及啓発

地域住民等に環境保全型農業の取組の重要性について理解していただくために、県HPにおける環境にやさしい農業者・農産物の紹介や、いしかわエコ農業フェア等において環境にやさしい農産物のPR、農林漁業まつり等でのパネル展示やパンフレットの配付などを行っている。

環境保全型農業の取組面積：9,160ha（R5）

※環境総合計画目標値：13,600ha（R7）



石川県エコ農産物

▲石川県エコ農産物マーク

現行ビジョンの成果

重点戦略3 森・里・川・海の連環に配慮した生態系の保全

○広域河川改修事業

洪水被害から住民の生活を守り、安全で安心な生活基盤を確保するため、計画的に堤防や護岸等の整備を実施することで、河川縦断方向の連続性が確保され、魚類の遡上が容易になるなど、動植物の生息・生育環境に配慮した整備を行っている。

○海岸クリーン運動推進事業

海岸清掃・植樹ボランティア活動の実施や、環境美化に関する普及啓発活動の実施により、海岸環境の保全に努めている。

ボランティア活動参加者数：50,501人（R6）



▲海岸清掃の様子

現行ビジョンの成果

重点戦略 4 多様な人材の育成・ネットワークの推進

里山のパートナーづくり、農林水産業の新規就業者の確保に関する取組が進められ、里山里海地域のネットワーク構築や人材育成が進んでいる。

○里山のパートナーづくり推進事業

企業や都市住民など多様な主体を「里山づくりのパートナー」として参画を促すため、いしかわ農村ボランティアの募集や、生物多様性に関する講演・企業の活動事例を紹介する企業向けの参画促進セミナー等を開催している。

農村ボランティア活動回数：39回（R6）
※17集落で延べ340人の参加



▲いしかわ農村ボランティア概要

現行ビジョンの成果

重点戦略 4 多様な人材の育成・ネットワークの推進

○いしかわ耕稼塾の運営

多様なニーズに応えるため、新規就農者向けやプロ農業者向け等各種コースを開講し、農業人材を育成している。

○あすなろ塾の運営

新規就業者確保に向けた林業出前講座、高校生等を対象とした林業体験の実施や、専門的な技術習得に向けた講習等を実施し、多様な人材の育成に努めている。

○わかしお塾の運営

石川県漁業協同組合や（一財）石川県水産振興事業団と連携して、就業希望者の体験乗船や就業相談、実地研修等を実施し、漁業就業者の確保に努めている。



▲いしかわ耕稼塾での様子



▲あすなろ塾での様子



▲わかしお塾での様子

農林水産業の新規就業者数

新規就農者数：122人（R6）

新規林業就業者数：45人（R5）

新規漁業就業者数：24人（R5）

※環境総合計画目標値：新規就農者数 150人／年（R7）

新規林業就業者数 30人／年（R7）

新規漁業就業者数 40人／年（R7）

現行ビジョンの成果

重点戦略 5 積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理

県指定野生動植物種等の希少動植物の監視、保護増殖に加え、トキの飼育繁殖や、大型野生動物の管理計画の策定、国、県、民間の協力による白山の外来植物除去等の取組が進められている。

○石川の種の保存事業

絶滅のおそれのある希少野生動植物種の保護のため、石川県指定希少野生動植物種を指定している。

そのうち、特に絶滅の危険性が高い種については、保護計画を策定し、大学、民間等と連携して調査や保護対策事業を実施している。

「いしかわレッドデータブック」掲載の絶滅種：15種
※環境総合計画目標値：15種（維持）（R7）

○トキ分散飼育

トキの飼育繁殖に努め希少種の保存に貢献するとともに、トキを通じて、生物多様性の重要性や里山の保全再生に係る普及啓発に努めるため、いしかわ動物園で飼育繁殖、公開展示、学習展示コーナーの体験型展示等を活用したトキの解説を実施している。

いしかわ動物園におけるトキの繁殖数：92羽（R7.3現在）
うち佐渡での放鳥数：84羽（R7.3現在）



▲トキ（いしかわ動物園）

現行ビジョンの成果

重点戦略 5 積極的な種の保存と適切な野生生物の保護管理

○鳥獣管理計画の策定

県内で生息数が増加している又は生息域の範囲が拡大している4種の獣類（ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ）を対象に管理計画を策定し、個体数の管理や計画的な捕獲を促進することで、被害の防止又は削減を図っている。

○白山山頂付近での白山外来植物除去作業

地域の団体やボランティア等の協力を得て、登山口、駐車場等におけるオオバコ等の低地性植物の防除活動を実施し、外来生物の除去に努めている。

白山外来植物除去作業の実施状況（R6）

実施回数：3回

参加者数：51名



▲白山外来植物除去作業

現行ビジョンの成果

重点戦略 6 生物多様性の恵みに対する理解の浸透

いしかわ自然学校・里山子ども園の推進や**いしかわの里山里海展の開催**等により、幅広い年代の県民に対して、生物多様性や里山里海から得られる恵みについての理解が進んでいる。

○いしかわ自然学校推進事業

「いしかわ田んぼの学校」、「木場潟水辺のまなび舎」、「いしかわ子ども自然学校」などの自然体験プログラムからなる「いしかわ自然学校」で多彩なプログラムを提供することで、次世代を担う子どもたちの健全育成と自然を大切に思う県民の増加を図り、自然と人とが共生する豊かないしかわづくりを推進している。

いしかわ自然学校の年間参加者数：25,754人（R6）
※環境総合計画目標値：43,000人（R7）



▲いしかわ子ども自然学校「白山登山」

現行ビジョンの成果

重点戦略 6 生物多様性の恵みに対する理解の浸透

○里山子ども園推進事業

幼少期からの自然とのふれあいの推進や保育士等への自然体験型環境教育の普及定着を図ることを目的に、毎年、里山の自然体験プログラムを実施している。

里山子ども園の参加園数（累計）：全体の65%【254園】（R6）
 ※環境総合計画目標値：全体の60%（R7）

○いしかわの里山里海展

里山里海の生物や暮らし、文化などの展示・体験等により、生物多様性の理解を深める「いしかわの里山里海展」を毎年開催している。

来場者数：9,000人（R6）



▲「いしかわの里山里海展」チラシ

重点戦略 7 国際的な情報の共有と発信

SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの設立や推進、国連大学との連携等により、石川県の取組の情報発信が行われ、世界の生物多様性保全に貢献している。

○ SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク事業

国内における「SATOYAMAイニシアティブ」の推進組織として、「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」を設立し、企業、民間団体、研究機関、行政など、多様な主体と交流・連携・情報交換を行っている。



▲ SATOYAMAイニシアティブ
国際パートナーシップ発足式

○ 国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット等の国際機関との連携

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットと連携し、国際シンポジウムや世界農業遺産国際会議等を開催し、国際的な調査研究に貢献している。

◆ 世界農業遺産国際会議2021（R3.11開催）

「能登の里山里海」が2011年6月に日本で初めて世界農業遺産に認定されてから10年の節目を迎えることを記念し、世界農業遺産国際会議2021を開催。国際機関や各国の世界農業遺産認定地域の代表者などが一同に会し、「能登の里山里海」のこれまでの取組や成果に加え、世界農業遺産の有する価値を世界に向けて発信

主催：石川県、農林水産省、国連食糧農業機関（FAO）、国連大学サステナビリティ高等研究所、能登地域GIAHS推進協議会

石川県生物多様性戦略ビジョンの改定について

○R5.3に国は新たな「生物多様性国家戦略」を策定

○現行ビジョンの策定から14年が経過。 **短期目標年次：2020年**

→国家戦略を踏まえつつ、トキと共生した環境づくりの推進など、本県の生物多様性を巡る環境変化を反映するため、今年度、ビジョンの改定を行う。

国・本県の生物多様性を巡る新たな動き

自然を回復軌道に乗せるために、
生物多様性の損失を止め、反転させる

生物多様性国家戦略2023-2030（R5策定）のポイント

・2030年目標：**ネイチャーポジティブ（自然再興）**の実現

【基本戦略】

- ①生態系の健全性の回復（保全から回復へ）
→**30by30**、生態系に配慮した公共事業の実施、希少種保全
- ②自然を活用した社会課題の解決
→**自然を活用した地域づくり**、気候変動適応、鳥獣管理
- ③ネイチャーポジティブ経済の実現
→生物多様性に配慮した事業活動の推進
- ④生物多様性の価値の認識と行動（一人一人の行動変容）
→環境教育の推進、多様な主体の参画による保全活動の推進
- ⑤生物多様性を支える基盤整備と国際連携の推進
→学術研究の推進、専門人材の育成、国際協力の推進

本県の生物多様性を巡る動き

- ①**能登地域でのトキの放鳥・定着**
→生息環境整備、ボランティアなどの人材育成
- ②**国立公園指定60周年を契機とした白山の魅力向上・発信**
→白山地域の保護と利用の好循環
- ③**白山手取川ユネスコ世界ジオパークの認定**
→エコツアーなど環境教育の推進
- ④**能登半島地震からの復旧・復興**
→地震による影響の把握、生物多様性に配慮した復旧の実施、自然を活用した復興の推進（「のとSDGsトレイル（仮称）」の創設、震災遺構の地域資源化）

石川県生物多様性戦略ビジョンの改定について

改定イメージ

現行の取り組みの継続に加えて、**国家戦略や本県の新たな動きを反映したビジョンとする。**

方向性

【中長期目標（2050年目標）】 いのちあふれ トキが舞う 里山里海を未来の世代へ

現ビジョンから継続

【短期目標（2030年目標）】 **トキと共生するいしかわの実現**

1 人とトキとが共生する里山里海の利用保全の推進（人とトキとが共生する環境の整備、里山ファンド等）

⇒里山のシンボルとしているトキの放鳥を見据え、里山里海の利用保全を一層推進する。

2 自然を活用した地域づくりと社会課題の解決（白山の魅力向上・発信の強化、能登半島地震からの復興等）

⇒本県の最近の動向を踏まえ、自然を使った元気な地域づくりを推進する。

3 生態系の健全性の回復（30by30実現に向けた取組（国立・国定公園拡張等）、環境保全型農業の推進等）

⇒これまで実施してきた生態系の保全に加え、30by30の実現に向けた取組を推進することにより、生態系の回復を図る。

4 生物多様性に対する理解の促進と行動変容（環境教育の推進、都市住民のボランティア促進、自然体験活動の充実等）

⇒これまで実施してきた県民等への理解促進に加え、自主的な行動を促す。

5 生物多様性を支える基盤づくりと国際的な情報共有・発信（コーディネーターや農林水産業の担い手育成、里山イニシアティブ等）

⇒多様な人材の育成や大学・研究機関等による調査研究に加え、これらを活かした国際的な情報発信を推進していく。

今後のスケジュール

- ・本日の改定委員会でいただいたご意見、県と委託業者（アドプランツコーポレーション）が実施するビジョン改定に係る調査、分析、検討などを踏まえ、年度内に委員会を今後2回程度開催し、最終案を取りまとめる。



本日の改定委員会で議論いただきたい内容

- 本県の生物多様性の現状に対する課題について
- 現行ビジョンを改定するにあたり、必要な視点について
- 本県の生物多様性の現状や、現行ビジョンの取組状況を踏まえ、今後必要と考えられる取組について

